

花の里づくりの会

第16号会報 2020年4月1日発行



第八回記念樹《平成24年3月6日植樹》

ハナミズキ

学名：Cornus florida

目：ミズキ目 科：ミズキ科 属：ミズキ属 亜属：ヤマボウシ亜属

原産地：中国南部 別名：百日紅(ヒヤクジツコウ) 猿滑(サルスベリ) 帕森樹(ハクヨウジュ)

ハナミズキの名は、ミズキの仲間では花が目立つことに由来する。また、別名のアメリカヤマボウシの名は、アメリカ原産で日本の近縁種のヤマボウシに似ていることから。樹皮は灰黒色。葉は楕円形となっている。秋には紅葉する。花期は4月下旬から5月上旬で、白色や薄いピンク色の花をつける。但し、花弁のように見えるのは総苞で、中心の塊が花序である。実際の花は、4弁の直径5mm程度の目立たない花が集合して、順次開花する。秋につける果実は複合果で、赤い。

ごあいさつ

2019年度より、新たに会長に就任した、吉田厚雄です。この花の里づくりの会には、準備の段階から関わり、発足後は副会長として中山宏会長のお手伝いをさせていただきました。

この度、中山会長のご退任に伴い、会長に就任いたしました。どうぞよろしくお願ひ致します。

昨年、15周年記念の会報を発行しましたが、本会もひとつの節目を越えて、また新たな世界に向かって進み始めました。

この15年の歩みの中で、少しずつ花の里づくりの会の活動が地域の皆様に知られていき、それが地域の外にも広がりを見せる様になって来たと感じています。植栽された花の鑑賞のため、ご遠方からも新羽の地を訪れていただくようになってきました。

また、地域の方々には、寺院や神社、新羽丘陵公園、新羽小学校、新羽中学校、新羽高等学校等を中心に、たくさんの方々に活動にご参加いただいていると実感しています。これもひとえに、正会員や賛助会員の皆様のご協力と支えが有つてのことと強く感じています。本当にありがとうございます。

これからも、活動を継続して、できるだけ多くの方々に楽しんでご参加いただける花の里づくりの会に育てていきたいと思つております。

この長い新羽の歴史とともに、この活動が20年、30年と続いて広がっていきますように、皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

花の里づくりの会 会長 吉田厚雄



会長宅 庭「桜」



会長 吉田厚雄



2019年度の植栽及び事業実績

- ◆新羽丘陵公園◆ 花壇の植栽に補助
- ◆県立新羽高等学校◆ 通学路の美化整備に花苗の協力：年1回
- ◆市立新羽小学校◆ 卒業記念樹 ハクモクレン2本
- ◆光明寺◆ ハギ白20株・赤20株
- ◆西方寺◆ ヒガンバナ白100球・黄200球・ピンク400球、秋海棠10株、ミモザアカシヤ2本
- ◆善教寺◆ ドウダンツツジ10株、クルメツツジ20株、ヤマモミジ5本、椿10本
- ◆蓮華寺◆ 蠟梅1本、クリスマスローズ10株
- ◆専念寺◆ アジサイ30株



2020年度の植栽及び事業計画

- ◆新羽丘陵公園◆ 花壇の植栽に補助
- ◆県立新羽高等学校◆ 通学路の美化整備に花苗の協力：年2回
- ◆市立新羽小学校 卒業記念樹◆ 2本（樹種未定）
- ◆光明寺◆ ヒガンバナ赤300株、ヤマユリ50球
- ◆西方寺◆ ヒガンバナ黄300球・白100球・ピンク500球、秋海棠赤5本・白5本、ミモザアカシヤ2本、椿1本
- ◆善教寺◆ ドウダンツツジ20株、クルメツツジ10株、ヤマモミジ5本、酔芙蓉5本
- ◆蓮華寺◆ 日本スイセン50株、ヒガンバナ赤50株・黄50株、クリスマスローズ10本、シャクヤク5株、チューリップ赤40球・白40球・黄40球
- ◆専念寺◆ ヤマモミジ10本、アジサイ30株

光明寺

横浜市港北区新羽町3990番地
TEL (045) 591-0590



スイセン (2月)



スイセン (2月)



沈丁花 (3月~4月)



シャクナゲ (4月~5月)



チューリップ (4月)



ヤマユリ (7月)

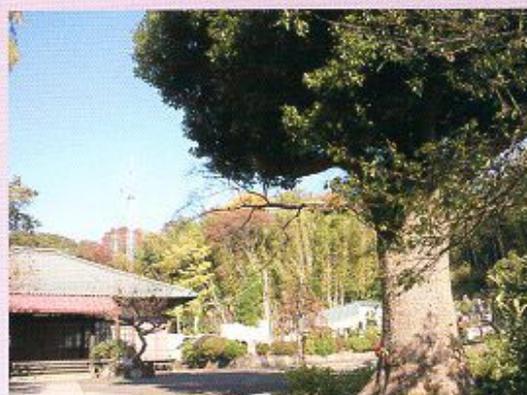


酔芙蓉 (9月)



蓮華寺

横浜市港北区新羽町3952番地



ミツマタ (2月)



日本水仙 (2月)



クリスマスローズ (2月)



紅梅 (3月)



しだれ桜 (4月)



オオムラツツジ (5月)



八重桜 (4月)



八重桜 (4月)



モクレン (5月)



雪柳 (5月)



あじさい (6月)



さざんか (12月)



専念寺

横浜市港北区新羽町1578番地

TEL (045) 531-1518



チューリップ (3月)



ジャーマンアイリス (5月)



シャクヤク (5月)



シャクヤク (5月)



クリスマスローズ (2月)

善教寺

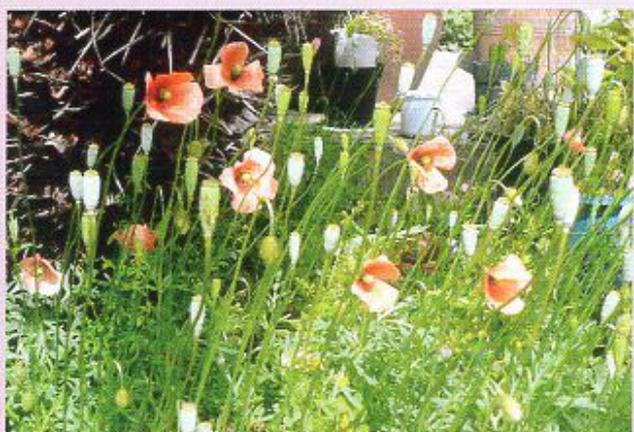
横浜市港北区新羽町2396番地
TEL (045) 531-5050



ツツジ (4月)



ユリ (4月)



ポピー (7月)



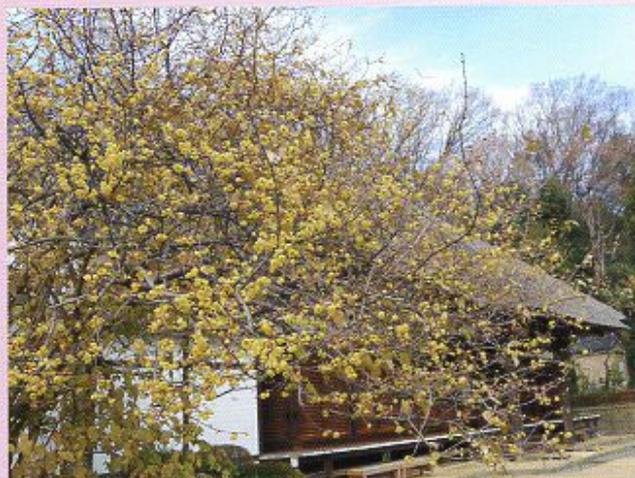
クレマチス (7月)

スイフヨウ (10月)



西方寺

横浜市港北区新羽町2586番地
TEL (045) 531-2370



蠟梅 (1月~2月)



中日桜 (3月~4月)



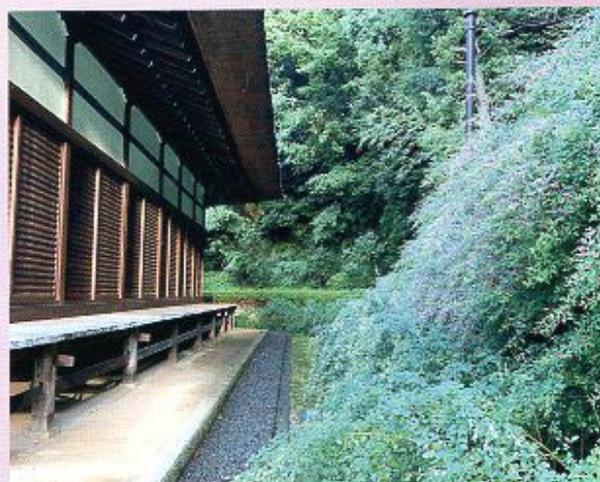
椿 (8月)



彼岸花 (9月)



彼岸花 (9月)



萩 (10月)



植樹体験

望月海音

私は植樹をすることが楽しみでした。たくさんボランティアの方が来て植樹の仕方を教えてくださいました。穴は、ボランティアの方が掘っていてくれました。穴からみんなが掘っていたらすごく大変だったと思いました。ハクモクレンという木を植えて高さが四メートルもすると聞いておどろきました。公園には様々な卒業記念の木が植えてあり、卒業記念の植樹は、昔から行われているのだなと思いました。今度は、どのくらい大きくなったのかを見に行きたいです。



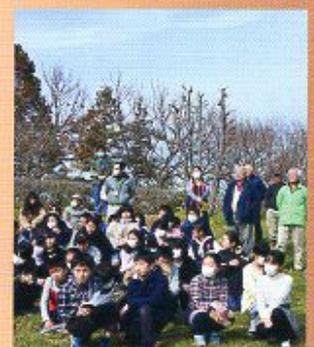
卒業記念植樹

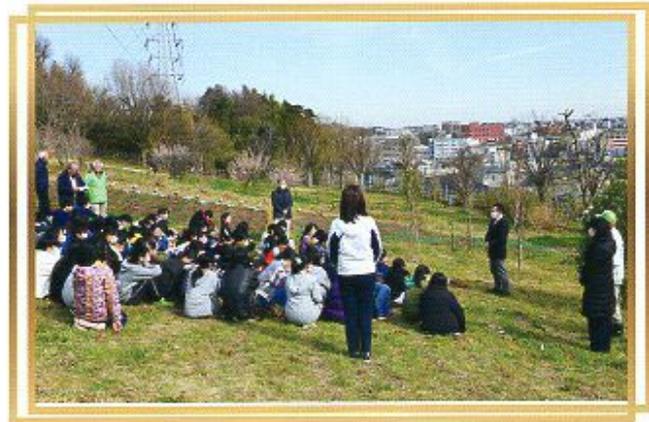
掛 札 海 綺

私は卒業記念植樹で「ハクモクレン」という木を植えました。こんなに大きな木を植えたのは初めてで、貴重な経験になりました。そして、このような貴重な体験をさせてくださった地域の方々に感謝しています。ありがとうございました。

私が大人になったら、友達と大きくなったハクモクレンを見に、新羽丘陵公園に行きたいと思います。

卒業記念植樹





ハクモクレン 美しく 強く

新羽小学校長 三枝 秀明

今年度も6年生が花の里づくりの会、新羽丘陵公園愛護会をはじめとした皆様のお力添えにより、記念植樹をさせていただくことに深く感謝いたします。

令和元年度卒業生は、ハクモクレンを植えさせていただきました。早春に大きな真っ白の花をつけるハクモクレンは、陽の光を受け春の喜びを感じていました。毎年、ハクモクレンが咲くと数日のうちに春一番が吹き、せっかく咲いた花はもみくちゃにされうなだれてしまいます。もみくちゃにされながら決して落ちることのないハクモクレンの花に、美しいだけでなく力強さを感じていました。

いくつかの候補の樹木の中からハクモクレンを選んだ今年の卒業生は、このハクモクレンのように美しくたくましく成長してほしいと願っています。

新羽丘陵公園に記念植樹をさせていただいたことは、自分たちが在籍していた証を残すことであり、また再会を約束する事でもあります。ハクモクレンが咲く時期に集うことができたら素敵です。このような機会と場所を提供して下さったことに感謝いたします。

今後ともハクモクレンと共に卒業生の成長を見守ってくださることをお願いいたします。



新羽小学校PTA会長 望月 隆

新羽丘陵公園に今年で15回目を迎える新羽小学校卒業記念植樹が去る令和2年2月28日に港北区長はじめご来賓の方々のご列席のもと行われました。

卒業生が選んだハクモクレン2本を花の里づくりの会より頂き、新羽丘陵公園愛護会、地域の皆様のご協力を賜り植樹いたしました。

ハクモクレンはこぶしとよく似ていますが花卉は額を含めて9枚の肉厚な花が3月から4月にかけて咲きます。こぶしは花卉が6枚で薄平たい花が咲きます。

ハクモクレンの花言葉は気高さ、自然への愛などです。この花言葉のように卒業生には自分を高め、人に優しく思いやりの心がある大人に、また植樹祭の学びを生かして自然を大切にする、故郷を大切にする心豊かな大人に成長するように願っています。

結びに、花の里づくりの会、新羽丘陵公園愛護会、地域の皆様には、平素よりPTA活動にご理解とご協力を賜り感謝、御礼申し上げます。ありがとうございます。今後とも生徒児童の健全な成長のため暖かいご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

6年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。新型コロナウイルスなどに負けずいつの日かまたこの場所で笑顔の花を咲かせてくれることを願っています。

県立新羽高等学校の通学路緑化整備

新羽高等学校 副校長 川又 弘明

本年度も、「花の里づくりの会」からのご支援並びにご協力を賜り、感謝申し上げます。本校の環境整備委員会の生徒たちが中心となり、新羽高校敷地内の大竹・亀の甲橋側の入り口にある三角地や正面のロータリー及び正門脇の通学路の緑化整備を5月13日（3学年）、5月15日（1・2学年）、11月12日（1・2学年）に行うことができました。

高校生になると、土に触れる機会はほとんど無くなりますが、軍手をはめ、シャベル、ビニール袋、培養土、じょうろを持ち、正門右坂下の三角コーナーへの播種、正門前やロータリー周辺のプランターの整備、昇降口前の花壇とプランターの整備を生徒たちは熱心に行いました。

三角コーナーのコスモス、菜の花や、校内のマリーゴールド、ナスタチウム、ジニア、インパチェンス等の花が、登下校する生徒、来校される保護者、学校周辺にお住いの地域の方々の目を和ませていただければ、たいへん嬉しく思います。

生徒達が花を育てることをとおして、多くを学び、豊かな感性を育むことにつながっていると感じています。改めて「花の里づくりの会」の皆様が推進されている緑化活動に感謝いたします。

これからも本校の通学路緑化整備への取り組みが、地域の方々とともに新羽地区の緑化整備に役立ち、安全で安心な美しい環境づくりに貢献できればと願っています。今後とも、本校教育活動へのより一層のご理解とご協力をいただけますよう、お願いいたします。



ご挨拶

顧問 杉山神社 宮司 土岐頼延

新羽の町には、杉山神社が2社鎮座しています。両杉山神社の境内には花の里づくりの会からの花木が植栽を彩っており、参拝者の目を楽しませておりますことを感謝申し上げます。

古来神社と花との関わりには「祭り」「祭神」があります。

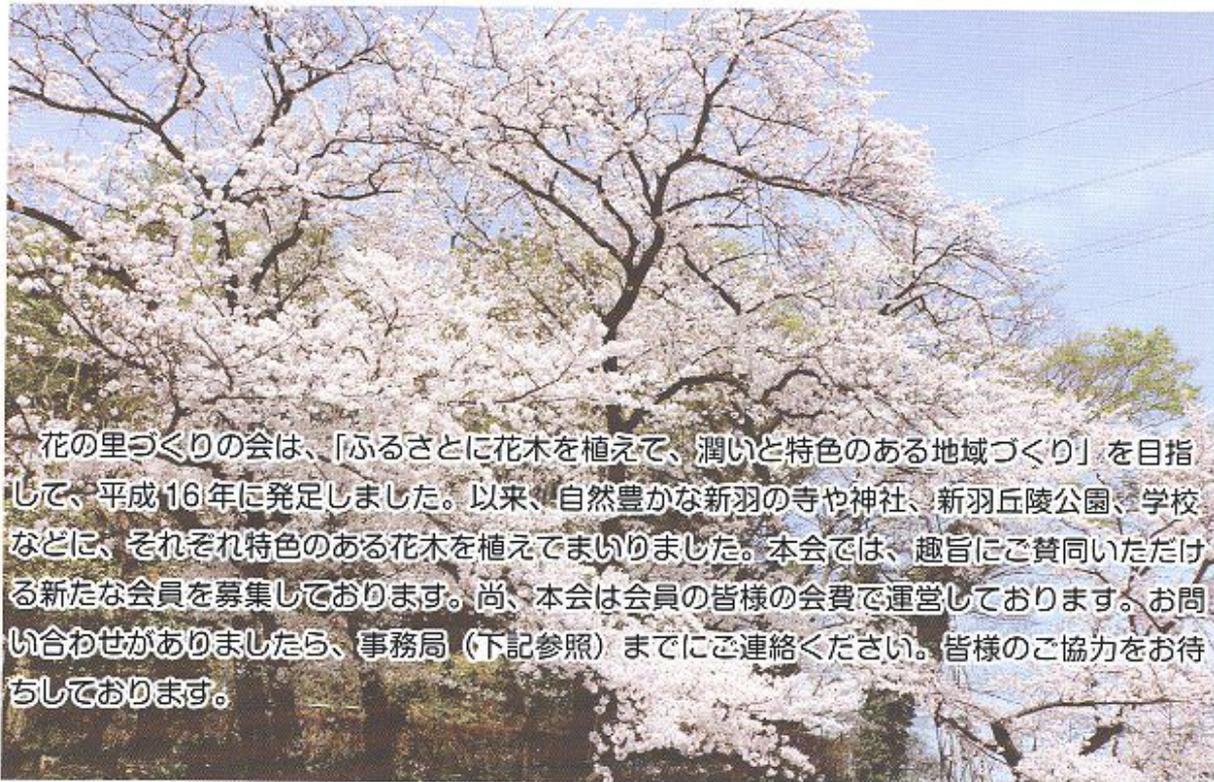
花の「祭り」は大きく二つあり、満開の花を神前に献花する祭りと、花の散る時期に活発になる御霊や疫神を鎮める祭りが 있습니다。

献花祭は、花を神前にささげ、生き生きとした花に神の靈力を移そうとするものだと考えられます。祭りの中では、子どもたちが重要な役割を果たし、花が満開になると稚児行列や稚児舞などを奉納し、今年も豊作になる予感でみんな喜び合います。鎮花祭は、春の花びらが散る時に疫神が分散して流行病を起こすために、これを鎮過するための祭りで、この祭りが「大宝律令」(701年)に国家の祭祀として行っていました。

「祭神」では、富士山を御神体としている富士山本宮浅間大社の主祭神に祀られている木花之佐久夜毘売(このはなのさくやびめ)は、「木花」は桜の花で、「桜の花の咲くように咲き栄える女性」とも考えられています。

今年は、「万葉集」の「梅花の歌三十二首」の序文を典拠とした「令和」の初春を迎え、十二支の初めの子年であります。北の杉山神社の境内には「狛ねずみ」があり、参拝者をお迎えしています。

花の里づくりの会の目指す「潤いと特色のある地域づくり」には、花木の力が必要です。貴会の益々の弥栄と会員の皆様の御活躍を御祈念致し御挨拶とさせていただきます。



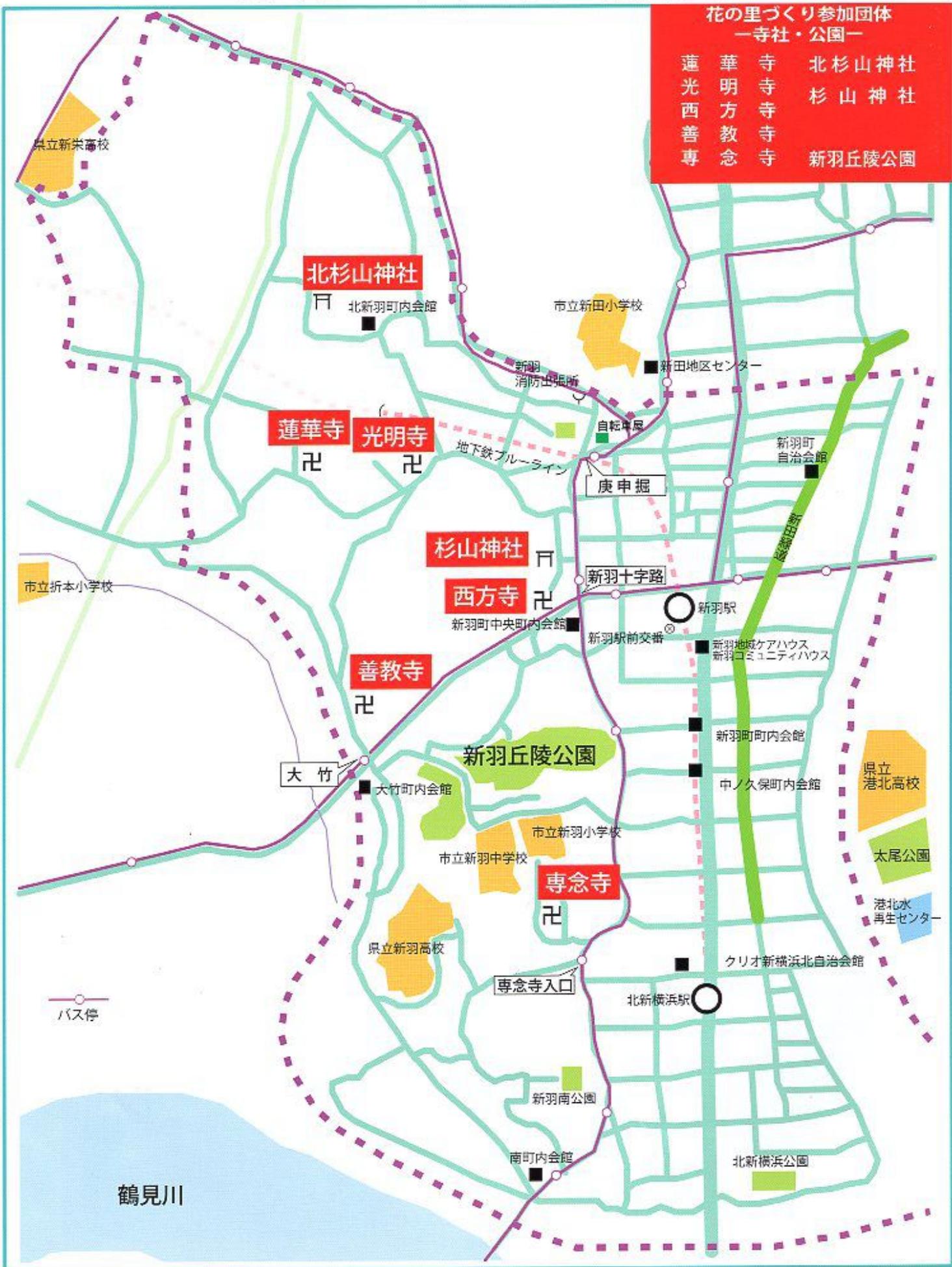
花の里づくりの会は、「ふるさとに花木を植えて、潤いと特色のある地域づくり」を目指して、平成16年に発足しました。以来、自然豊かな新羽の寺や神社、新羽丘陵公園、学校などに、それぞれ特色のある花木を植えてまいりました。本会では、趣旨にご賛同いただける新たな会員を募集しております。尚、本会は会員の皆様の会費で運営しております。お問い合わせがありましたら、事務局(下記参照)までにご連絡ください。皆様のご協力をお待ちしております。

花の里づくりの会 会報第16号 2020年4月発行
発行者/花の里づくりの会 会長 吉田厚雄
お問合せ先/事務局 栗原 稔 TEL 045-591-1995
印刷/有限会社 田丸文林堂

花の里づくりの会 案内図

花の里づくり参加団体
一寺社・公園一

- | | | | |
|-------|-------|------|--------|
| 蓮光西善専 | 華明方教念 | 寺寺寺寺 | 北杉山神社 |
| | | | 杉山神社 |
| | | | 新羽丘陵公園 |



バス停

鶴見川